学校支援ボランティアだより

平成24（2012）年7月(文月)第21号(24年度第1号)

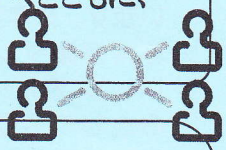
編集責任　～学校支援コーディネーター～
地域教育力活性化協議会
七塚生涯学習センター　Tel 285-1377　Fax 285-1109
宇ノ気生涯学習センター　Tel 283-0057　Fax 283-6652
高松公民館　Tel／Fax 281-8686

清流

3ヵ月間、休んでいた学校支援ボランティアだより、久し振りの発行となりました。

本年度より、生涯学習通信と一緒にこの学校支援ボランティアだよりを発行する形となりました。この学校支援ボランティアだよりと生涯学習通信を約3ヶ月に1度、同時に全戸配布することにより、現在のかほく市の生涯学習・社会教育について少しでも知っていただき、皆様方におかれましては、あらゆる事業・講座・ボランティア等に積極的に参加していただき、かほく市の振興・発展にご尽力いただけると非常に事務局としてもうれしいですし、皆様方にとっても知識の向上、かほく市内の人たちとのふれあいや絆も深まると思っております。

本年度もまだ、3ヶ月。始まったばかり・・・これから、夏から冬にかけて、さまざまな活動がなされていきますが、学校・地域・家庭の連携を積極的に推進していけるようなネットワーク作りを深めていくとともに、地域の教育力をもっと生かしていけるよう努力していかなければならないと思っております。



積極的な子どもたち　小学校の先生から次のような電話がありました。「子どもたちが 3～4 人で、ぶどう作りをしている方の畑へ連絡もなしにいきなり訪ねて、“今学校でぶどう作りの勉強をしているので、ぶどう作りを教えてほしい”と言ったそうです。そうしたら、“今はまだぶどうの実ができていないので、ぶどうが実ったら教えてあげる”と言われたと、今朝子どもたちが話してくれました。」

そして続けて、「このぶどう作りの方は、学校支援ボランティアに登録しているのかどうか、または、登録の有無にかかわらず、学校支援コーディネーターとして、学校に関わる方たちに指導されることがあるのかも知れないので電話しました。」と話されました。

この話は、3 年生の放課後のことで、良い話だと思いました。その第 1 は、子どもたちがよく育っているなあ、と思ったことです。2 番目は、地域の住民であるぶどう農家の方が子どもに対する接し方が実に適切であると思いました。そして 3 番目に思ったことは、子どもたちと学級担任との関係の良さについてでした。

地域で育つ子どもたち　自分に関わる勉強のことで、積極的に主体的に子どもが育っていること、その陰に親と教師の姿が見え隠れし、その延長線上に地域の大人であるぶどう農家の方がいるのです。今はジベレリンつけで大変な時期であることを単に断るだけでなしに、「実ったら教えてあげよう」という言い方は、とても素敵に感じます。この言い方は、子どもたちには、待ち遠しい楽しみな勉強になるのではないでしょうか。このことは、地域の学校、地域の子どもは、地域住民で育てる、という今取り組んでいる学校支援事業の本質に迫るものと思います。